

# <施設カルテの見方>

## 施設カルテ

基準日 令和5年4月1日

### 1 基本情報

「施設名称」や「所在地」「設置目的」など基本的な情報です。

- 「大分類」は、市民文化系施設、社会教育系施設、産業系施設など11種類あります。
- 「中分類」は、集会施設、文化施設、スポーツ施設など22種類あります。

### 2 建物情報

「延床面積」や「建築年」「法定耐用年数」のほか、これまで実施してきた「大規模改修」の内容など建物の情報です。

- 「老朽化率」は、耐用年数に対する経過年数の割合です。老朽化率が100%に到達すると、一般的に更新する時期が到来していると言えます。

### 3 機能情報

「利用状況」や「稼働率」「コスト」など施設がどのように利用され、どのような収支状況であるのかなどの機能情報です。

- 「利用区分」は、次の2つのどちらかに記載しています。

- ①利用者が特定されていない施設  
不特定多数の人が利用可能な施設  
(集会施設、文化施設、図書館、庁舎など)
- ②利用者が特定されている施設  
児童や入所者など特定者の利用を想定した施設  
(学校、放課後児童クラブ、障害福祉施設など)

- 「支出(維持管理費に関する経費)」は、市が支出した経費を決算ベースで記載しています。  
※指定管理者が支出した経費は除く。
- 職員の「人件費」は、維持管理に直接従事する者の人数を記載し、複数施設で兼務している職員は、施設間で按分しています。(正規職員は1人8百万円で算出、それ以外は実額。)  
※指定管理施設の常勤職員数は、特記事項に記載。

施設No.	再編計画	施設No.
1 基本情報		
施設名	所管課	財産分類
所在地	管理体制	指定管理者名等
根拠条例等	利用者範囲	敷地区分/借地料
	災害警戒区域等	指定避難所
再編計画	方向性	長寿命化
2 建物情報 (主たる建物)		
延床面積 (付属施設を含む)	m	耐震診断
代表建築年	年	耐震改修
法定耐用年数①	年	取得事由
老朽化率②①	%	階数
未利用スペース	m	取得事由
	部屋	地上
		階
		地下
3 機能情報 (利用状況・稼働率・コスト)		
主な利用者		
利用区分		
①利用者が特定されていない施設		
利用者数	人	
うち、使用料等を納付した者	人	
開館日数(利用可能日数)	日	
1日当たり利用者数	人/日	
②利用者が特定されている施設		
児童等の数	種別	人
利用者1人当たりの延床面積	m <sup>2</sup> /人	
開館時間		
休館日		
稼働率		
部屋名	午前	午後
施設(部屋)全体	午前	午後
特記事項		
支出 (千円)		
維持管理経費		
光熱水費		
委託料		
保守点検等		
指定管理料		
その他		
使用料・賃借料		
修繕料・工事請負費		
修繕料		
工事請負費		
その他経費		
維持管理に係る人件費(職員)		
正規(再任用含む)	人	
会計年度任用職員	人	
支出合計		
収入 (千円)		
施設使用料等 ※利用者負担		
補助金等		
その他		
収入合計		
差引一般財源 ※市民全体の負担額		
コスト指標 ※コストは工事費を除く	単位	
利用者負担の割合		
利用者1人当たりの支出額	円/人	
利用者1人当たりの一般財源	円/人	
建物1㎡当たりの支出額	円/㎡	
特記事項		

- 「利用者範囲」は、次の中から主な利用者の居住範囲に最も近いものを記載しています。  
①市全域 ②旧市町村 ③小学校 ④町内会(集落)

- 「未利用スペース」は、現在利用していないスペースの有無、今後発生する見込み、現在未利用スペースがある場合はその部屋数と面積を記載しています。  
例えば、空き部屋を荷物置場等として使用している場合でも、その荷物が他の部屋で収納(代替)可能な場合は、未利用とします。

- 「稼働率」は、会議室、ホールなど貸出可能な部屋がある場合に記載しています。  
原則として、令和4年度の実績とし、利用可能時間を「午前・午後・夜間」に分割しています。午前・午後・夜間の利用単位を「枠」といい、1日3枠とします。  
(午前・午後だけの施設は1日2枠となります)

#### ※計算式参照

##### 稼働率の算出方法 (例: 施設全体の稼働率)

$$\frac{\text{年間の利用実績 (3,000枠)}}{\text{(利用した枠数(全部屋・全時間帯)の合計)}} = \text{稼働率} 37\%$$

$$\text{年間の利用可能枠} = \text{利用可能日数} \times \text{部屋数} \times \text{枠数}$$

(8,100枠) (300日) (9部屋) (3枠)

#### <計算式の解説>

開館日300日で9部屋あり、それぞれ午前・午後・夜間の3枠あるため、施設全体の利用可能枠は8,100枠のところ、利用した全ての部屋の午前・午後・夜間の合計は3,000枠

- 「差引一般財源」は支出(工事費を除く)から収入を除いた額で、市民全体の負担額となります。

- 「コスト指標」は、利用者1人当たり、または建物1㎡当たりの利用負担割合を示しています。